

カメレオンラブソデイ

えのもとぐりむ

【登場人物】

- | | |
|----------------------------|---------|
| 烏帽子元——うだつの上がない長男。無職。 | 松田大輔 |
| 蒼衣——元の連れ。奔放な女。 | 廣瀬菜都美 |
| 烏帽子銀二——堅実な次男。父の塗装会社を継いでいる。 | カジ |
| 烏帽子茜——銀二の妻。控えめな女。 | 大和田紗希 |
| 烏帽子緑——出来の良い長女。 | 天野美咲 |
| 烏帽子黄一——元の息子。今は銀二夫婦と生活している。 | 宮内慧人 |
| 野島詩郎——銀二の会社で働いている。明るい男。 | 堤裕樹 |
| 野島桃子——詩郎の妻。色気のある女。 | 内田菜々 |
| 黒磯麻里——元の妻の妹。気性の荒い女。 | 瀬戸梓友 |
| 薄田勇希——烏帽子家の隣にある薄田家の引き籠もり。 | 堀丞 |
| 僧侶——環骨法要でお経を読みに来た坊主。 | イマニヤスヒサ |

●照明サス

目を大きく見開いた烏帽子元が黄一を抱きしめている。

黄一が飛び退くように烏帽子から離れる。

烏帽子の腹には包丁が刺さっている。

烏帽子

刺された……刺されてるよ……嘘だろ、おいおい刺されたよ、包丁刺さってんじゃん、どうすんのこれ。これで俺は死ぬのか？　これが俺の最後か？　どうすんのよ俺

烏帽子が崩れるように跪く。

烏帽子

ははっ、まさか息子に刺されてしまうとはな。ま、当然の報いか。ああ、のたうち回って痛い痛い悶えたい。だが、ここで哀れな姿を息子に見せたくない。俺は変わったんだ、息子に軽蔑されていた弱い俺は終わりだ、ここで死ぬのは弱い俺だ、息子よ、弱い俺を殺してくれてありがとう。今日、お父さんは生まれ変わるぞ

烏帽子が包丁を腹から抜こうとするが痛みが全身に走り「あ」と声を漏らす

烏帽子が自分を鼓舞するように何かを呟きながら、ゆっくりと包丁を引き抜く。

抜き取った包丁を床に投げ捨てる烏帽子。

烏帽子が足元に落ちていた携帯を拾い、立ち上がる。

烏帽子

(携帯に目を落とし)春、至極当然に桜が咲く。毎年毎年、あれから一年が経った、また一年が経ったよと知らせをくれる。青い空をキャンバスにして一面に薄桃色の桜が描かれる訳だ。空をキャンバスに例える表現くらい、春の訪れは憂鬱だ。このままじゃダメだ、何か変えないと、変わらないといけないって思ってからあれから、あれから五年が過ぎました。春になると得体の知れない生き物が胸の中をぐるぐると暴れてどうしようもない。俺の体の中にはカメレオンがいるのかもしれない。いつまで経っても変わらない俺に変幻自在のカメレオンが怒って爪を立てているのだろう。分かっている、俺だって変わりたい、こんな情けない生活を一変させたい。変わってお前と暮らしたい。ずっとそう思っていた

●暗転

○タイトル

カメレオンラブソング

○烏帽子家の居間（昼）

誰もいない居間。

奥の部屋から聞こえてくる木魚を叩く音とお経。

隅にカメレオンの玩具が入ったケースが置かれている。

野島夫婦が現れる。

野島 ごめんくださいーい

奥から「はいーい」と緑が出てくる。

緑 野島くん、来てくれたんだね

野島夫婦が「この度はお悔やみ申し上げます」丁重に頭を下げる。

緑 奥さんありがとね、どうぞ、上がって上がって

野島 失礼します。すみません通夜も葬儀も伺えなくて

緑 いいのいいの、奥さんは体調大丈夫？

桃子 はい

野島 昨夜急に高熱出して大変だったんですけど、薬が効いたのか大分良くなったみたいで、な

桃子 ……うん、風邪じゃなくて熱が出たんです、時々あるんです私、高血圧なんで熱が

上がりやすくて、けどもう大丈夫です

緑 そうなのね、そうは言っても無理して来てくれたんでしよう

野島 会長は奥ですか？

緑 ん、そう、もう骨だけになっちゃたけど、奥にいるよ

野島 社長は？

緑 銀次兄は向こうで手合わせてる

野島 そうですよね……元さんは？

緑 来てないよ、ま、五年も音信不通で誰も連絡取れないし、お父さんが死んだことも

知らないだろうし、あの人も生きてるかも分からないしね
野島 ですよ、あの、これ

野島が香典を差し出す。

緑 (受け取り) 父の為に二人ともありがとうございます。丁度今、法要中だけど、もしよかったら(部屋を指す)

野島 ああ、はい。桃子、こっち

緑に案内され奥に入っていく野島夫婦。

緑が戻って来て、お茶やお菓子の用意を始める。

●SE着信音

緑が鞆から携帯を取り出す。

緑 え……嘘、え嘘

緑が戸惑いつつ携帯を耳に当てる。

緑 もしもし……もしもし……お兄ちゃん？ もしもしお兄ちゃん？、もしもし

玄関の扉が乱暴に開き勢いよく蒼衣が入ってくる。

蒼衣 ごめんください！

緑 あ

蒼衣 ごめんください

緑 あ、ちよ、もしもしお兄ちゃん

蒼衣 ごめんください

緑 あ、ちよ、待ってください、もしもしお兄ちゃん

蒼衣が居間に上がってくる。

緑 (待って、の仕草) あ、少々お待ちを、もしもし！ お兄ちゃんなんでしょ！

蒼衣 ねえ

緑 (待って、の仕草) あのね、お父さんが死んだんだよ! お兄ちゃんもしもし

蒼衣 ねえねえ

緑 (待って、の仕草) どこにいるの? お兄ちゃん、今どこにいるの!?

蒼衣 そこにいるよ!

緑 え

蒼衣 そこにいるって、あなたのお兄さん

緑 嘘?

蒼衣 元ちゃん、入って来なよ、ほら、そこでうだうだしてても始まんないよ

携帯を耳に当てた烏帽子が現れる。

烏帽子 もしもし、俺だ。元だ

緑 お兄ちゃん

烏帽子 ごめんな、五年も音信不通で

緑 ……うん、あのね、お父さんが死んだの

烏帽子 みたいだな

緑 一昨日倒れて、さっき火葬が終わって、もう骨になっちゃってるよ

烏帽子 ああ、来るの遅くてすまん

蒼衣 直接やれよ、電話じゃなくて、直接やれよ

烏帽子 ああ、そうだな。緑、直接やろう。電話、切るぞ

緑 うん、そうね、直接やろう、この距離だし

緑と烏帽子が携帯を切る。

烏帽子 五年ぶりだな

緑 どこにいたの?

烏帽子 それは、あの、えっと

蒼衣 ずっと私の家に居候してるの、この人

緑 ……誰?

蒼衣 蒼衣

緑 お兄ちゃん、こちらの蒼衣さんという方は……

烏帽子 その、何ていうか世話してもらってるというか、付き合ってる女性というか
緑 ああ、そう。兄がご迷惑をお掛けしていたのですね、申し訳ないです
蒼衣 それはいいんだけどさ、いいよね？ はじめちゃん上がっても
緑 うん、はい、うん、どうぞ

緑が奥の部屋に入っていく。

蒼衣 大丈夫そうじゃん、良かったね

蒼衣が適当な場所に腰掛ける。

恐る恐る居間上がる烏帽子。

緑が銀次を連れて戻ってくる。

銀次 兄貴

烏帽子 ……よっ

銀次 生きてたんだ

烏帽子 ああ、ごめんな長らく連絡もしなくて

銀次 何しに来たんだよ

烏帽子 親父、死んだんだろ？

銀次 ああ

烏帽子 それで、来た

銀次 そうか

烏帽子 すまなかった。俺は変わったと思う。だから帰ってきた（笑顔）ただいま

銀次 お、おかえり

烏帽子 親父に手を合わせてもいいかな？

銀次 ん、うん、あ、いや、ダメだ

烏帽子 ん？

銀次 ダメだ、俺、我慢できないわ

拳を握った銀次が烏帽子に向かっていく。

銀次を緑が止める。

緑 銀次兄、やめよう、大人なんだし、ね、落ち着こう

銀次 無理だ。俺、こいつ殺すわ

緑 ダメだって

銀次 お前、何ヘラヘラしてんだよ、何で笑ってんだよ

烏帽子 すまなかった

銀次 殺す。何が変わっただ。何にも変わってねえじゃねえか。こっちの気持ちも考えずに突然戻って来やがって。笑ってんじゃねえよ。お前何も悪いと思ってねえだろ

銀次が烏帽子を掴み投げ飛ばす。

銀次 お前は死んだんだよ、出て行け、消えろ！ そうじゃなきゃ今ここで俺が殺す

烏帽子 生きてるよ俺は、変わったんだよ、悪いと思ってる、反省してる、これからやり直したいんだよ、すまなかった

銀次 ダメだ、やっぱりこいつ何にも悪いことしたと思ってる

烏帽子 思ってるよ、さっきから謝ってんじゃん、ずっと謝ってるよ、これ以上、どう謝ればいいんだよー

銀次が烏帽子を殴り飛ばす。

騒ぎを聞きつけた黄一や茜が奥から出てくる。

茜 あなた、何やってるの？

銀次 クソ兄貴が帰って来たんだよ。お前は口を出すな。コイツは俺が片付ける

茜 はい

烏帽子 行ってえな！ 何だよ、喧嘩売ってるなら買うぞ

銀次 喧嘩売って来たのはお前だろ？

烏帽子 え、いつ？ いつ俺が喧嘩売ったんだよ、ずっと謝ってんじやーん

銀次 謝ってんじやんって言っちゃう態度が謝ってねーんだよ！

烏帽子が銀次を殴り飛ばす。

茜が倒れている銀次に駆け寄る。

烏帽子 反省したから帰ってきたんだよ！ 喧嘩売ってねえよ俺は！